

□議員名：杉本 保喜

1 山陽小野田市防災体制の改善状況について

論点	避難所運営において、「関係者（教育委員会等）との早期の協議実施やその訓練は行政側から機会を設ける」の進展はどうか。
回答	市避難所開設・運営マニュアルを本年 3 月に策定し、女性や高齢者の配慮、行政の役割、避難生活の長期化への対応も入れた。避難所となっている学校との同意を得ながら協力体制の確立も進めているところである。行政からの訓練の働きかけは、本マニュアル等を提供しながら継続実施できるよう努めたい。

論点	災害時のボランティアセンター設立・運営時の社会福祉協議会との連絡・調整や協定の締結等での進展はどうか。
回答	本年 4 月 19 日市災害ボランティアセンター設置、運営に関する協定を取り交わした。これに基づき、相互の連携・協力関係が強固になり災害時の開設・運用が迅速かつ円滑に進められるよう努める。また、5 月 19 日社協を招き、本所管の 3 課で災害時ボランティアセンター運営協議会を開催した。今後も定期に開催して双方の課題解決を図りたい。

論点	NHKの「d」ボタンで見る「河川水位」に有帆川を表示できる要望・対策はどうか。
回答	調査の結果、県下の二級河川の流路延長が 100k m以上の 7 つの川を表示している。有帆川は、二級、流路延長 54k mで対象になっていない現状である。全国規模のシステムのため、現状では早期の改修は困難とのこと。しかし、県、下関气象台と当市が減災の対策協議会を立上げ、関係機関が連携してハードソフト両面の対策にあたる。市ホームページからは、情報収集ができる。

2 江汐公園の有機的活用について

論点	指定管理者制度における「トリプルウイン」は当園に生かされているか。
----	-----------------------------------

回答	より多くの意見を管理運営に反映させる等のトリプルウインの実現は重要だと考えている。以前に指摘され、四日市市の事例を見て指定管理制度のフローチャートを作成した。今、これに基づきアンケート等を作り、協議をする形になる。まだ、言われるようなシステムではないが改善の方向で進めている。
----	--

論点	市民から江汐公園に「ドッグラン」を設置して愛犬家との交流、モラルの向上そして近傍からの来園指向を図ろうという活動がある。薬草園の設置を含め、市民を含めた協議会が必要ではないか。
回答	公園施設の要望は、幅広いアンケート等も必要になるだろうと思う。また、振興会等地域に根付いた団体に意見を伺いながら慎重に検討することになる。薬草園は、大学薬学部設置において2か所で申請しており、そのうちの1か所が江汐公園である。関係大学教授等に立地面等を視察してもらった結果、第2駐車場北側になった。公園としての機能を損なうことはないと言える。

3 「活力と笑顔溢れるまち」づくりの有機的活動の一つ「観光」について

論点	観光ボランティア育成の具体的な戦略プランはできているか。
回答	本市に実績のあるガイド団体と観光協会と中心に観光ボランティア育成のための研修、現地視察をやっている。必要に応じて市として支援も検討する。

論点	「おもてなしサポーター」ビジターCTの「おもてなし」研修とのネライとプランを問う。
回答	宿泊施設や観光に関わっている事業所や団体の従業員の方等に研修を受け、ミニ観光案内所として活躍していただく。8月9月に都合の良い日程で研修会に参加し、サポーターとして活動していただく予定である。本年度は20か所を確実に設けていきたい。その上で100か所まで広げていきたいと考えている。

論点	地域公共交通網の快適な循環は、観光にとっても重要である。先進
----	--------------------------------

	事例をもって速やかに改善を図るべきではないか。
回答	観光において利便性の高い移動の実現、公共交通網の果たす役割は非常に高いと考えている。29、30年度で幹線・支線の見直しを交通会議で展開する。32年度までに交通結節点等の検討をして整備していきたい。